NPO地球の緑を守る会/〒121-0072東京都足立区保塚町１－６/Tel:03-6783-4707Fax:03-6783-5595/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
令和5年(2023)6月10日
No. 186
発行　高津啓洋

エスペランサ村で植樹活動

パラグアイ北部チャコ地方のプエルト・レダに私たちの拠点があります。ここから北方にエスペランサ村があり、昨年もこの村で植樹を行いましたが、昨年植えたものが育っているかという調査とともに、新しい箇所に植樹をしました。一行は6月9日にエスペランサ村に到着、早速作業に。今回は小中学校のコルマン校長先生から、「教室に強い日差しが差し込まないようにできないか」との願いを受けて植樹を行うことになりました。まず、太陽の強烈な日差しが教室に差し込まないように、ニームの木を10本植樹しました。そして教室周辺にアセロラの木を6本、そしてグレープフルーツの木を5本、バランスよく植樹。したがって今回はニーム、アセロラ、グレープフルーツの合計21本の木を植えました。

エスペランサ村の土壌は塩分が含んでいますから、こまめに手入れしても枯れてしまう場合もあります。今回、レダから肥料を持ってきて、土壌に肥料をよく馴染ませてから植樹しました。今回、肥料がどれほどの効果があるか、次回ここを訪れた時観察し、結果をまとめてみたいと思います。

今回、校長先生からの要望で実現しました。したがって学校の先生方や村の青年、子供たちも協力していただき皆さんで植樹ができたことはうれしい限りです。

植樹の後、小中学校のコルマン校長や、高校のジョセ校長ほか先生と懇談する時間もありました。先生たちから、植樹は無論のこと、人格教育の指導、農業・養殖などの技術教育の指導の要望などを伺いました。

地球の緑を守る会はレダ基地周辺の村々で植樹活動を行ってきました。最近の例を挙げますと、2022年９月にはエスペランサ村、2021年７月にはマリア・アウシリアドーラ村、2019年はプエルト・グァラニ村、2018年はトロパンパ村等など。これからも、こうした村々で植樹した木がどのように生育しているのかを調べ、今回のように植樹で活動を進めていきたいと思っています。

高尾小仏峠育樹祭に参加

5月20日(土)、高尾小仏峠育樹祭2023春が開催。あいにくの霧雨の中、作業に入る。2017年より毎年、植樹祭が行われる場所。横浜国大名誉教授宮脇昭さんの提唱する「混植・密植型植樹」方式では、苗木を植えてもその後、3年間は草抜きが必要。今回は育樹(草抜き)と補植が行われた。2年前に植えた場所を鎌で刈り、引き抜く。参加者80余人。同時に去年秋、植樹した所を補植。イノシシやシカによる荒らされた藁の補正もする。「地球の緑を守る会」は初年度より参加。ポット苗から成長する様を見るのも楽しみだ。初参加の松野さんは親子連れ参加の方がいて、素晴らしい。カ希望を感じました。早い内に破壊されていく地球の現状や木々の緑を自分たちで増やしていくなど、とても良いと感じました。(溝垣記)

[お知らせ] パラグアイの植樹ボランティアを随時募集しています。関心のある方は事務局まで連絡ください